

キャラクター名
東良直哉

プレイヤー名

シンドローム	オルクス ブラックドッグ		ワークス	高校生	カヴァー	高校生
	オプション		年齢	17	性別	♂
覚醒	感染	衝動	解放	初期侵食率	32 %	
出自	安定した家庭	経験	大きな転機	邂逅	いいひと：中学の先生	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	31
肉体	2	1	0			3	行動値	9
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	9
精神	2	0	3			5	戦闘移動	14
社会	2	0	0			2	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志		1	調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
大地の恵み@100	RC	18r+2		25		侵蝕値13。領域使用後、惑+完全+大地+棘
天からの恵み@100	RC	18r+2		35		侵蝕値15。領域使用後、惑+完全+大地+棘+雷
大地の恵み@160	RC	21r+2		31		
天からの恵み@160	RC	21r+2		43		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
思い出の一品：素直との思い出	

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
シナリオ：西條素直	P 純愛	N 悔悟		
(タイタス)昇華)男友達(南本)	P 友情	N 食傷		
(タイタス)昇華)中学の時の先生(北川先生)	P 信頼	N 劣等感		
(タイタス)昇華)両親	P 連帯感	N 疎外感		
(タイタス)昇華)素直の両親	P 誠意	N 疎外感		
(タイタス)昇華)中村さん	P 好奇心	N 無関心		
(タイタス)昇華)住んでいる街(並木町)	P 幸福感	N 恐怖		

最大財産P: 4 残り財産P: 2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト：オルクス	2							
効果：	RCダイス+LV5個							
得意領域	5	3	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果：	RCダイス+LV5個							
惑いの一撃	2	3	メジャー	-	-	対決	-	
効果：	ドッジダイス-[LV2+1]							
完全なる世界	2	5	メジャー	-	-	対決	100↑	
効果：	ダイス+[LV2+1]、攻撃力+[LV2×3]							
大地の加護	5	2	メジャー	-	-	対決	-	
効果：	攻撃力+[LV5×2]							
棘の縛め	3	1	メジャー	視界	単体	対決	-	
効果：	攻撃力+[LV3]、硬直							
雷の槍	4	2	メジャー	視界	-	対決	-	
効果：	攻撃力[LV2×2+4]、同エンゲージ不可							
鼓舞の雷	1	4D10	イニシアチブ	視界	単体	自動	120↑	
効果：	イニシアチブでメインを行える。1回/シナリオ							
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

ひがしらなおや。ジャームになってロストする運命。

俺には幼馴染みがいる。家が近所で、小さい頃はよく遊んで、時々喧嘩しては親に怒られて、仲直りを繰り返した女の子。ひとつ年上の西條素直は、名前の通りに真っ直ぐで明るくて、お姉さんぶっているけど案外対等に見てくれる、そんな子だ。でも年齢の差なんて全く感じなかったのは小学生の時までだ。

俺が中学生になった時、周りの目が気になってつい「先輩」と呼んでしまった。その時の直ちゃんの顔が、どこか寂しそうだったのを覚えている。

でも、やっぱり、仕方なかったんだ。あそこで名前でも呼んでいたら、だってからかわれていただろ。それからしばらく経って、中学3年生の俺から見た高校1年生の「西條先輩」は、すっかり遠くの世界の大人みえだった。家はずっと近所のままだから、顔を合わせることはもちろんある。会話だってする。できることなら昔みたいに、用事もないのに林を散歩したり、転がって星空を見たり、くだらないことで笑い合いたい。

そんなささやかな夢は、俺がもう少し勇気を出せば叶うのに、って。そう、思っていたのに。

腕から、足から、棘を伴った蔦が生えてくる。踏み出した足が地面に触れれば、そこからまた、蔦が伸びる。死んでいく街の中で、俺もまた、壊れていく。

NPC：西條素直 にしじょうすなお
私/君とかそちらとか普通な感じ。直哉のことは「直哉君」と呼んでいる。昔も今もそれは変わらない。
(正確に言うと、最初は「直君」と呼んでいたけど「直ちゃん」と被るのでやめた)
多分直哉のことはそれなりに好きだけど、ちょっと距離を置かれてるのが寂しい。